

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立北陵学校

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>「豊かな人間性を培い、主体的、創造的に自己実現をめざす、心身ともにたくましい生徒を育てる。」</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <p>(1)確かな学力の定着と向上を図る。(基礎基本の定着と活用型の授業改善) (2)豊かな心を育てる。(①絆づくり 一人一人が存在感と達成感をもてる集団づくり ②居場所づくり 安心して学べる環境『時を守り・場をきれいにし・礼をつくす』) (3)将来に夢を持ち、自ら考え行動し、進路を切り拓く力を育てる。 (4)小学校や地域との連携を進める。 学校は『一人前の大人になるための学びの場』である。自分の良さや個性に気づき、それを主体的に伸ばそうとする心や態度は、この中学時代に基礎が培われる。本校教育目標・指導の重点達成に向け、全教職員が協働して教育活動を展開し、信頼される学校づくりに努めたい。</p>
<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国 ○国語A、国語B、数学Bについては、県平均と比べると正答率が高い。 ○数学Aについては、県平均と比べると正答率は低い。 ○国語Aの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のすべての領域において県平均より高い。 ○数学Aの「図形」領域は県平均と比べると正答率は低い。</p> <p>県 ○国語、数学、社会については、県平均と比べると正答率が高い。 ○理科については、県平均と比べると正答率は同程度。 ○国語は「読むこと」は得意であるが、「話すこと・聞くこと」に課題がある。 ○社会は「我が国の国土と地域の様子」はよく理解できているが、「我が国の政治の働き」に課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>○授業の始めに目標、終わりにまとめが示されていたと思っている生徒の割合は県平均よりかなり高い。 ○家で計画を立てて、予習や復習を行っている割合は県平均よりかなり高い。 ○原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことへの抵抗が少ない。</p> <p>○間違えたところや、理解していないところを復習する機会が少ないと感じているうえ、自分自身でも復習を行っていない。 ○授業の中で話し合う活動を行っていたと思っている生徒の割合は低い。 ○友達の前では自分の考えを伝えられるが、授業の中で自分の考えを発表することに抵抗がある。</p> <p>○テレビやビデオ、DVDの視聴時間は、県平均と同程度。 ○家庭での学習時間(1時間以上)の割合は、県平均より高い。特に土、日は、県平均よりかなり高い。 ○読書が好きな生徒が多く、昼休みや放課後に学校図書室を利用(週に1～3回以上)する割合は県平均より高く、読書をする(1日30分以上)の割合も高い。 ○近所の人に挨拶をしているかは、県平均より低い。</p>
<p style="text-align: center;">成果と課題</p> <p>成果 ○近年継続して、どの教室にも「本時の目標」「本時のまとめ」の授業プレートを設置し、どの授業でも目標やまとめを示して、授業を行うように全教職員で共通理解をし、実行をしている。その結果、県平均をかなり上回って、生徒は授業の始めに目標やまとめが示されたと思っている。 ○小中で連携をして家庭学習時間のめやすを示したり、家庭学習のあり方について校内で研究したり、自由に学習プリントを取れる棚(今年度より英語を増設)を設置するなど環境を整えた結果、計画的に家庭学習を行っている生徒は多い。</p> <p>課題 ○どの教室にも授業プレート「考えてみよう」「話し合おう」が設置されているものの使用率が低いため、授業の中で話し合う活動を行っていたと思っている生徒の割合は低い。 ○理解が不十分な箇所の復習をする機会を多く与える必要がある。</p>	<p style="text-align: center;">課題に対応した改善方法</p> <p>○「考えてみよう」「話し合おう」の授業プレートを積極的に活用していき、授業の中で、生徒が友達と話し合ったり、自分の考えを発表する機会を多く作る。 ○どの教科でも小テストを定期的に行い、生徒の定着度を確認しながら、不十分なら再度指導をする。 ○机間指導を充実させ、個に応じた指導時間を確保する。 ○定期テスト前の、質問教室の更なる充実。 ○データベースの活用→自由に取れる学習プリント棚(アクティブラーニングスペース)の内容の充実、利用促進。</p>
<p style="text-align: center;">取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)</p> <p>○中2に学力定着状況たしかめテストの実施(11月) ○家庭学習調査アンケート(11月) ○小中連携の学力向上担当を中心に、各学年の課題を明確にし、改善を行う。(2学期、3学期) ○上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。</p>	<p style="text-align: center;">各校の具体的な達成目標(数値目標等)</p> <p>○全教科において、全国平均の正答率を上回る。 ○授業の中で話し合う活動を行っていたと思っている生徒の割合で県平均を上回る。 ○「家で復習をしている」と回答する生徒の割合を70%以上にする。</p>